

(様式第4号：市町村提案型)

令和7年度みやぎ環境交付金（市町村提案型）事

計画書
実績書

市町村名	大崎市	部課係名	産業経済部農政企画課
事業名	蕪栗沼・周辺水田ラムサール条約湿地登録20周年記念事業		
単年・2ヶ年の別	単年事業・2ヶ年事業【1年目・2年目】（丸で囲むこと）		
事業概要 （背景、目的、 事業内容、事業量等）	<p>令和7年11月8日にラムサール条約登録20周年を迎える「蕪栗沼・周辺水田」のこれまでの保全と賢明な利用について、市民とともに振り返るとともに、地域の課題である世代交代についても地域全体で考えるきっかけとなるよう、普及啓発を行った。</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none">○ ラムサール条約湿地登録20周年イベント（11月8日）<ul style="list-style-type: none">・ 基調講演・ 事例報告・ パネルディスカッション・ エクスカーション（ねぐら入り視察・飛び立ち観察）○ 記念誌編纂<ul style="list-style-type: none">・ これまでの課題と取組み、苦労を年表で振り返り、次世代に教訓や知恵を引き継いでいく内容にまとめた。・ ページ数は64ページを想定。印刷部数は関係者への必要最小配布部数の300部とした。データを本市ウェブサイトで公開予定。○ パンフレット改訂<ul style="list-style-type: none">・ 現行のパンフレットの情報を最新のものに更新した。○ 年間を通じた機運醸成<ul style="list-style-type: none">・ 地域行事や学校行事と併せて普及・啓発を行った。 7月6日おおさき生きものクラブ 参加者60人と古川黎明高校生12人に普及啓発を行った。 10月11日 キヤノンマーケティング 写真教室 in 蕪栗沼開催し、17人が参加した。 1月18日みさとクエスト出展し、来場者約700人に普及啓発を行った。 蕪栗沼・周辺水田ポスターコンクールを開催した。		
事業完了日	令和8年3月31日 ※当該年度事業の完了日を記載すること。		
【1年目】 事業 効果	二酸化炭素削減 効果(kg-CO ₂)	計画	不明
		実績	
	その他（普及 啓発人数等）	計画	400名
		実績	1000名

1 事業の特色

(1) 先進性・モデル性

蕪栗沼・周辺水田では、当時世界で初めて周辺水田という名称でラムサール条約湿地に登録されて以降、これまで課題に直面するたびに関係者の創意工夫により、全国のモデルとなるような先進的な取り組みを行ってきた。かつて「害鳥、かもっこ」とされていたマガンは現在、「市の鳥、マスコットキャラクターのモチーフ」となり、市民に愛される存在となっている。今後、他地域同様少子高齢化や、人口減少が進む中でも、当該地域における保全の取り組みを持続させていくきっかけを作ることで、全国にも課題解決のヒントを示すことができた。

(2) 必要性・緊急性

生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）や、G7・2030年自然協約においてもネイチャーポジティブの考え方が掲げられており、国際的にも生物多様性の回復が喫緊の課題になる中、湿地は水鳥の生息地というだけではなく、生物多様性の保全上で極めて重要な生態系である。一度湿地が喪失すると回復までに長時間を要することから、持続的な保全活動が重要であり、担い手となりうる方々には自分事として考えるきっかけを持ってもらうことが重要である。

(3) 地域課題への対応度

これまでも様々な課題に直面し、関係者の創意工夫により乗り越えて保全と活用を行ってきたが、蕪栗沼の保全においても、例に漏れず担い手不足の課題に直面している。

20周年を機に改めて貴重な地域資源としての認識を市民の間で共有することと、この宝を次世代に引き継ぐために、担い手となりうる若者世代が意識を持つ契機となった。

(4) 事業の発展性

年間を通じた機運醸成は、単年度で終わるものではなく、次の10年をどのように蕪栗沼と向き合うのかを考え、取り組むきっかけとなり、この姿勢は他のラムサール条約湿地のみならず、大崎地域における「大崎耕土」や環境保全活動を次世代に繋ぐ取組みに波及することが期待される。

(5) その他特記事項